

さかなの命

「早く、早く。さかながいっぱいいるよ。」

ぼくは、むちゅうでため池の中をのぞきこみました。そこにはエビやフナなどがむれをなして泳いでいたのです。池の岸をしゅう理する工事のために、水をぬいていたのは知っていましたが、もうほとんど水がないと聞き、父といっしょに見に来たのです。少し後から来た父も、

「すごい。こんなにたくさんさんのさかなを見たのはひさしぶりだ。」
と、びっくりしています。

ため池は、深さ十〜十五センチメートルぐらいしかなく、大きなフナなどは、バタバタと苦しそうにはねていました。

ぼくは、さっそく池の中に入り、あみでさかなをすくい上げはじめました。

いつもなら、水音がただけで、さっと向きを変えるのですが、今日は水が少ないためか、あまり元気がありません。手でもつかめそうです。



そっと近くまで行き、さっとあみをすくい上げてみま
した。

「やったあ。たくさんとれてる。」

あみの中でエビやフナなどがびんびんとはねています。
すばやくバケツの中に入れました。その後も、むちゆうで
さかなをどんどんとり続けました。しばらくしてふと気が
つくと、バケツの中はさかなでいっぱいです。ぼくはうれ
しくて仕方しかたがありませんでした。

家に帰ると、さっそく母や妹に見せました。

「たくさんいたんだね。でも、もうにがしてやれ
ば……。」

「いやだよ。せっかくなつかまえたんだよ。きちんと世話せわを
するから、かっでもいいでしょう。お父さん。」

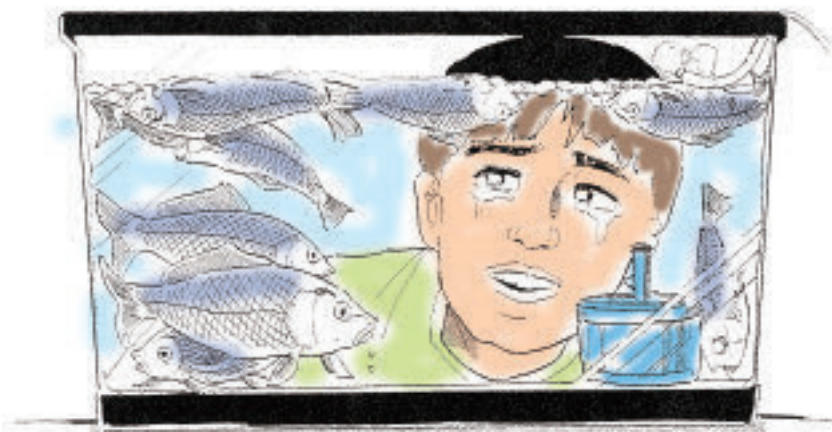
何度なんどもたのんでやっとかうことをゆるしてもらいました。



ぼくは、水そうに水を入れ、エアポンプを入れました。さかなの
数からすると、水そうが少し小さいかなと思いましたが・・・。

一日目は何度も様子を見に行きました。でも、しだいにぼくの
頭の中からさかなたちのことはうすれていきました。そして六日
目の夕方、えさをやりに行くと、さかなたちがほとんど死んでい
たのです。よく見ると、エアポンプのホースがはずれていました。
しばらく見に行っていなかったので気がつかなかったのです。急
いで水そうの水をかえてみると、三匹のさかなが生きていました。

ぼくは、生き残ったさかなを見ているうちに、なみだがこぼれ
てきました。そして、ぼくが今までかっていたカブトムシやハム
スターなどの動物たちのことを思い出していました。



次の日、生き残ったさかなたちを水の多い池に返すことにしました。家族にそのことを話すと、みんなが喜んでくれました。ほくは、三匹のさかなたちがすめそうな池をさがして放してやりました。そのとき、水の中に入ったさかなたちが、ほくをじっと見て、何か言っているような気がしました。

